

平成30年度・教育学部・研究科自己点検評価書

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	
基準4 学生の受入 4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	入学者選抜の改善に繋がった取組 ○アドミッション・ポリシー（AP）は、入学者選抜要項（学部）、学生募集要項（学部・研究科）及び本学部・研究科 HP で公表し、明示した求める学生像及び選抜方法ごとの見る力に従い、適切に入学者選抜を実施した。 ○高等学校代表者との懇談会（5/30 実施）及びオープンキャンパス（8/8、8/9）等において、AP に基づく本学部が求める学生像（学力の3要素等）及び教育の特色を説明した。 ○H31 年度入学者選抜（H30 実施）から、AP の基本理念等に沿った岐阜県内の教育現場で活躍したい学生を広く募集する「ぎふ清流入試」（推薦Ⅱ）を全講座等（技術教育除く）において実施した。志願者 69 名のうち県内 62 名、合格者 35 名のうち県内 33 名であり、AP に沿った選抜を実施することができた。 ○学部の入学者数は入学定員の 1.04 倍であり適正な数である。 ○研究科の入学者数は入学定員の 1.08 倍であり適正な数である。	入学者選抜要項、大学院募集要項（抜粋）（資料 1-1） 学部・研究科 HP（資料 1-2） 説明投影資料（資料 2） ぎふ清流入試について（資料 3） 入学者選抜概況（資料 4）	教育学部・研究科の取り組みを示すポンチ絵（公表用1枚）
基準5 教育内容及び方法 5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程） 5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）	単位の実質化を図るための取組 ○Web シラバスにおいて、各授業の「到達目標」と「評価の方法」及び「時間ごとの内容」を明示することによって、単位に対する事前・事後学習を促すようにしている。 ○学生が自分自身で身に付いた能力を確認しながら、目標をもって各学年・学期の学修を進められるようカリキュラムマップ及び学修録を作成し、学部新生に配付した。 ○適正な学修時間の確保を通じて単位の実質化を図るため、全ての教養科目・専門科目を GPA 対象科目とし、GPA 結果による履修上限単位を定めている。 ○2 年次に行う教職リサーチの実習校を市内の小・中学校の輪番制から実習指導に慣れている教育実習校に変更した。さらに翌年度、学生は引続き同じ実習校での教育実習（プラクティス）を行うことにしたことで、2 年次の教職リサーチの段階で 3 年次の教育実習への動機付けをすることができた。 ○大学院の一部専攻、コースにおいて、大学院設置基準 14 条、15 条に基づき夜間開講、遠隔教育を実施している。 ○教職大学院の学校管理職養成コースにおいては、県教委と連携して学校管理職養成に取り組んでいる。	学部・研究科シラバス（資料 5） カリキュラムマップ（資料 6-1）、学修録（資料 6-2） GPA 取扱要領（資料 7） 教職リサーチ実施要項（資料 8） 教育方法の特例（資料 9） グッドプラクティス事例（資料 10）	
基準6 学習成果 6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がって	学習成果の向上に繋がった取組 ○学生による授業評価アンケート結果より授業評価の肯定率が、学部平均で前学期 84.4%（前年度 82.6%）、後学期 86.5%（前年度 88.2%）と高い評価を保持している。 ○見直しを行った教職リサーチの事後に学生アンケートを実施し、「来年度の教職プラク	授業評価結果（資料 11） 教職リサーチ事後アンケ	

いること。 6-2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。	ティス（教育実習）では今回の教職リサーチの経験のどのような点が役立つと思いますか。」という設問に対して、「授業づくり（指導法）」を挙げる割合がリサーチⅠ（小学校）で 18.7%（前年度：12.9%）、リサーチⅡ（中学校）では 42.1%（前年度：26.6%）と高くなっており、教育実習への意識付け、プログラムの運動性の向上が見られる ○卒業時及び修了時の意識調査より、学生の教員としての知識・技能・態度に関する学習成果は、総合的に肯定率を平均して学部 75.6%（前年度 71.4%）、研究科 62.1%（前年度 54.0%）であった。学部は「人の気持ちや意見を聞きとる力」、「子供を理解する力」、研究科では「文献や論文を理解する力」、「専門の知識・思考力」において高い肯定が得られている。 ○H31 年 3 月卒業者及び修了者の教員就職率（進学者除く）は、それぞれ 59.7%（前年度 66.8%）、74.4%（前年度 70.5%）であった。卒業者の過去 5 年間の推移からは教員以外の就職率が増加傾向にあるため、今後の検討課題である。 ○過去 5 年間の標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率の推移、資格取得の状況等を確認した。 ○卒業時の専門的能力評価の試行を家政教育講座の卒業者で行った。評価項目や評価内容等を次年度引き続き検証する予定である。	ート（資料 1 2） 卒業・修了時アンケート結果（資料 1 3） H31.3 卒業者・修了者の就職状況（資料 1 4） 標準修業年限内の卒業（修了）率・資格取得等の状況（資料 1 5）	
基準 8 教育の内部質保証システム 8-1 【重点評価項目】教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。 8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	教育の質の改善に繋がる取組 ○前・後学期授業について、学生からの授業評価結果を受けて教員によるリフレクションを実施した。この結果は、集約結果を学部内で公表している。また、11/21（水）に開催した FD（89 名参加）において教育の工夫や改善を共有した（後学期は R1.7 を予定）。 ○教育実習（プラクティス）及びリサーチを効果的に実施するため、実習校、岐阜県教育委員会及び岐阜市教育委員会並びに本学部教員等による教育実習運営協議会を設けており、年度内に 2 回開催した。 ○H28 年度教職大学院認証評価（教員養成評価機構認定）において指摘を受けた事項について継続して対応している。そのうちシラバスについては、現職教員学生と学部新卒学生（ストレートマスター）との到達目標を分けて記載している。 ○自己点検評価委員会による自己点検・評価の結果を踏まえ、将来計画検討委員会や関係委員会において指摘事項の対応の検討・立案・提案を行っている。また、必要に応じて学部長の命により WG を立ち上げて対応している。H30 年度は、学部の定員、大学院の教科領域の教職大学院への移行について検討した。 ○教育改善及び向上を目的として、上記授業 FD のほか、次の FD を開催した。 ・新入学生アンケートの結果について（自己点検評価委員会）4/18（水）90 名 ・H30 年度教育指導（進路）の見通しについて（進路相談室）5/16（水）94 名 ・H29 年度後学期授業評価 FD（自己点検評価委員会）7/18（水）92 名	リフレクションペーパー集約結果（資料 1 6）、授業評価 FD 資料（資料 1 7） 教育実習運営協議会議事録（資料 1 8） 教職大学院認証評価対応（資料 1 9）	

	・卒業研究について（自己点検評価委員会）7/18（水）94 名 ・教師の成長について（自己点検評価委員会）9/19（水）84 名 ・H30 年度教育指導（進路）後半の指導について（進路相談室）10/17（水）92 名 ・H30 年度前学期授業評価 FD（自己点検評価委員会）11/21（水）89 名 ・授業評価からの工夫改善について（自己点検評価委員会）3/20（水）87 名		
--	--	--	--

平成30年度教育学部・教育学研究科における教育改革（基準4,5,6,8 関係分）

基準4 学生の受入

入試委員会

入学者選抜の改善に繋がった取組

- ◎選抜要項・募集要項・HPでAPを公表
- ◎APに沿った適切な入学者選抜を実施
- ◎高校代表者との懇談会、オープンキャンパスで求める学生像説明
- ◎ぎふ清流入試（推Ⅱ）の実施
 - ➡よりAPの基本理念に沿った推薦入試を実施
- ◎H31年度入学者
 - 学部：261名/定員250名（定員充足率104%）
 - 研究科：75名/定員69名（定員充足率108%）➡適正

将来計画検討委員会

基準5 教育内容及び方法

教学委員会

単位の実質化を図るための取組

- ◎Webシラバスに到達目標・評価の方法・時間ごとの内容明示
 - ➡事前・事後学習の促し
- ◎カリキュラムマップ、学修録
 - ➡学生自身が身に付いた能力を確認しながら目標をもって学修
- ◎GPA、CAP制➡適正な学修時間の確保
- ◎教職リサーチの見直し➡学びを深め教育実習にスムーズに繋げる
- ◎教職大学院
 - 教育委員会等における実習を開発した（学校管理職養成コース）
 - 夜間開講科目（教育実践開発コース）➡現職教員の学びやすい環境整備

ACT実施委員会

基準6 学習成果

学習成果の向上に繋がった取組

- ◎学生による授業評価の学部内公表（H24年度～）
 - 総合的な肯定率平均：前期84.4%（前年度82.6%）、後期86.5%（前年度88.2%）➡学習効果の高さ保持
- ◎見直しした教職リサーチ学生アンケート
 - 次年度の教育実習への意識付け、プログラムの連動性の向上
- ◎卒業・修了時アンケート
 - 学部：「人の気持ちや意見を聞き取る力」「子供を理解する力」
 - 研究科：「専門の知識・思考力」「文献や論文を理解する力」
- ◎H31.3卒業・修了者の教員就職率（進学者除く）
 - 学部66.8%（前年度59.7%）研究科70.5%（前年度74.4%）➡課題

自己点検評価委員会

基準8 教育の内部保証システム

教育の質の改善に繋がる取組

- ◎リフレクションペーパーの集約結果学部内公表、FDの実施
 - ➡教員相互の授業評価、教員教育力の自律的向上
- 教職大学院運営委員会
 - ◎教職大学院認証評価（H28外部評価）指摘事項の対応進行中
 - シラバスは、現職教員とストマス（学部新卒学生）を区別
 - ➡キャリアに応じた到達目標
- 教育実習運営協議会・「教職リサーチ」実習に関する協議会
 - ◎実習校と連携し、教育実習・教職リサーチの効果を高める取り組み